

# 京都府内における「ニホンジカ」食害の現状と対策

## 「ニホンジカ」の食害の現状

ニホンジカの過度の採食により自然植生への影響が危惧されています。

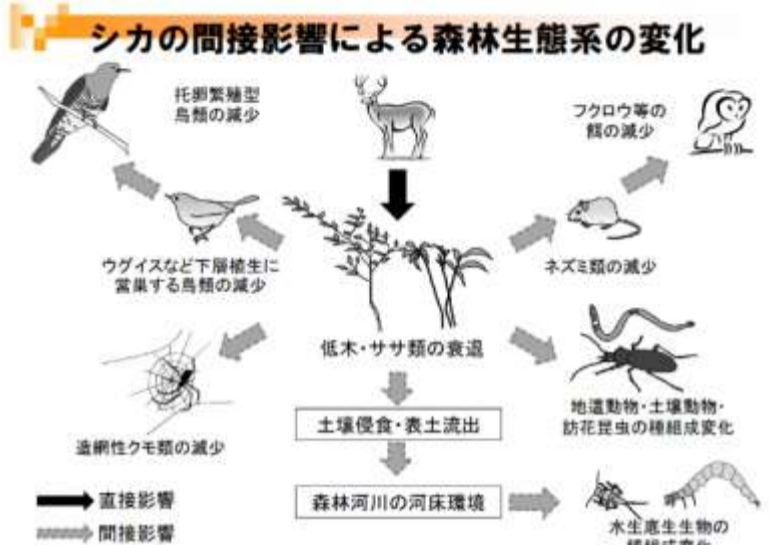
近年、ニホンジカの分布拡大及び個体数増加に伴い、農林業被害の増加だけでなく、過度の採食による自然植生への影響が危惧されています。

とくに、森林の下層植生の衰退は、希少植物への影響だけでなく、自然植生が荒廃することで、森林に生息する動物の減少に伴う生物多様性の低下や、表層土壌の流出、さらには森林河川の河床環境へも悪い影響をもたらすなど、生態系全体への影響を招く恐れがあります。



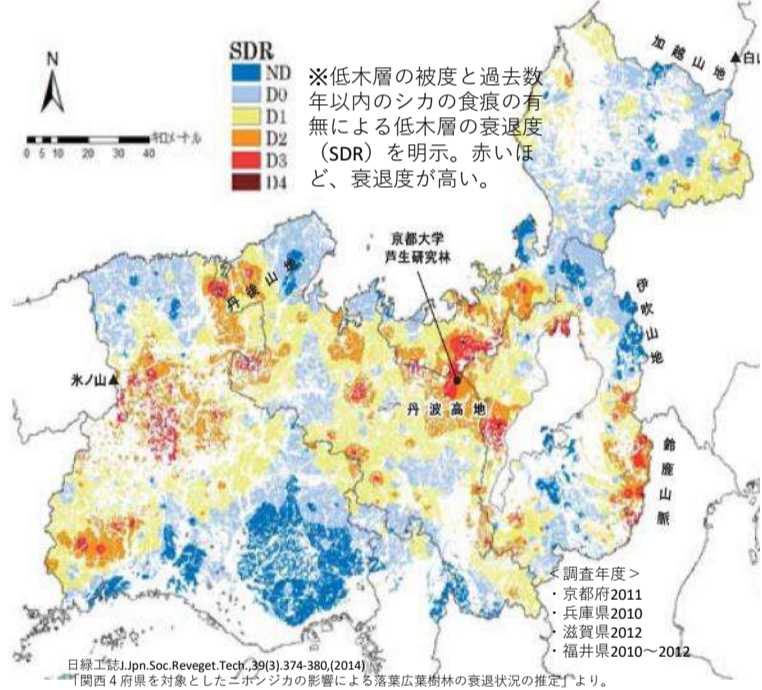
【芦生研究林内でのニホンジカの過採食による下層植生の衰退の様子】

(左：1989年11月17日(鳥取大学山中央和教授提供)。右：2020年11月12日(京都大学石原正恵准教授提供)。1989年にはササやシダ、稚樹等の下層植生が茂っていた。2020年には裸地が広がり、下層植生の大部分はシカの嗜好性植物であるイワヒメワラビやコバノイシカグマである。

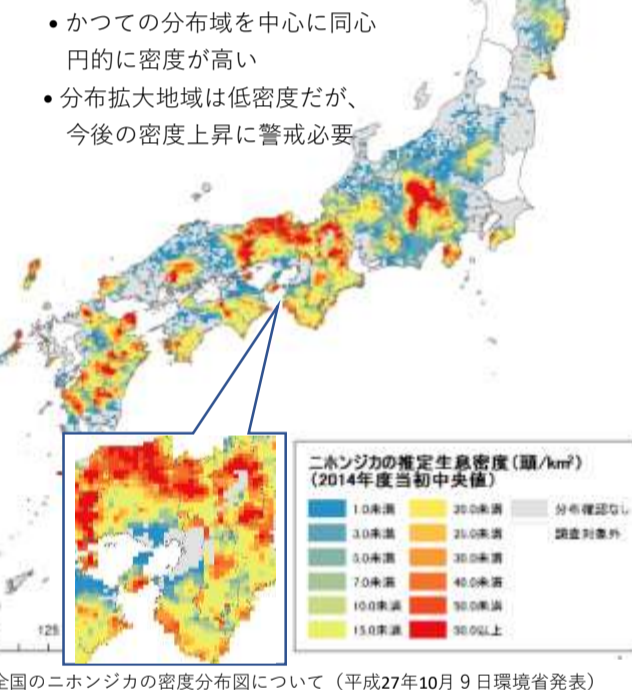


作成者：岐阜大学野生動物管理科学研究センター(鳥獣対策研究部門)

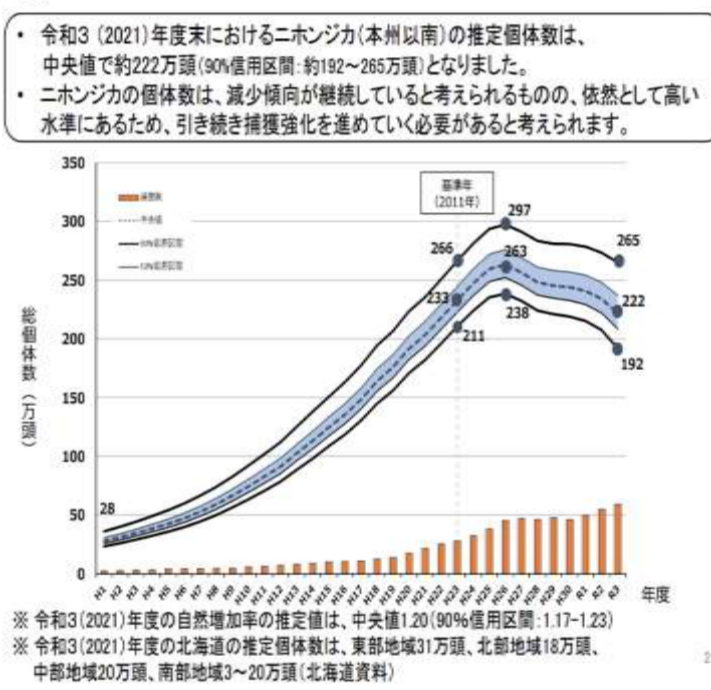
### 【近畿におけるニホンジカの影響による下層植生の衰退状況】



### 【全国のシカの密度分布の傾向】



### 【ニホンジカ(本州以南)の個体数推定】



## 「ニホンジカ」への対策

このため、京都府では、第二種特定鳥獣管理計画(ニホンジカ)を策定し、積極的な捕獲により生息頭数を減少させることで個体数を適正に維持するとともに、獣害に強い地域づくりを推進し防除効果を高め、農林業被害や生態系被害を減少させる取組を推進しています。

### 【第二種特定鳥獣管理計画～ニホンジカ～の概要】

**目的** 積極的な捕獲により早期に生息頭数を減少させることで地域個体群を適正に維持するとともに、獣害に強い地域づくりを推進し防除等の取組効果を高めて農林業被害や森林生態系被害を減少させることにより、人とニホンジカとの共存を図る。

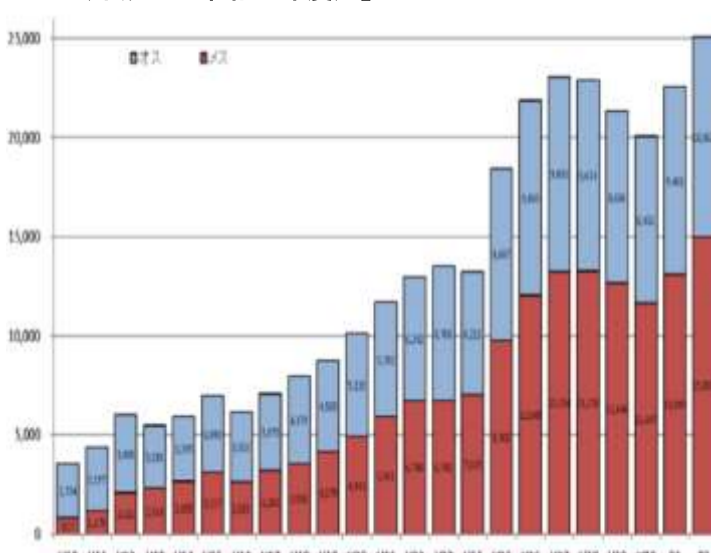
**計画期間** 令和4年4月1日～令和9年3月31日まで

**管理区域** 分布は府内全域(3つの地域に区分)  
 ○北部個体群(福知山市以北、由良川以西の個体群。兵庫と連続)  
 ○中部個体群(南丹地域、京都市北部を中心とした個体群。福井・滋賀・兵庫と連続)  
 ○南部個体群(京都盆地以南の個体群。奈良・三重と連続)

**管理目標**  
 1. 農作物被害額の半減  
 令和2年度の被害金額(73,000千円)を令和8年度に半減  
 2. 個体数の半減  
 令和2年度の生息頭数(96,000頭)を令和8年度に半減

**捕獲目標**  
 ■年間捕獲目標  
 メスジカ: 15,000頭 (オスジカ: 11,000頭)  
 (モニタリング調査の結果等を勘案し、年度別に作成する事業実施計画において順応的に再設定)

### 【京都府内でのシカ捕獲数の推移(オス・メス別)(平成10～令和2年度)】



### 【京都府内の推定生息数のシミュレーション結果】

